



友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(一財)日本友愛協会

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-mail:yuai@yuaiyoukai.com

http://yuaiyoukai.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

鳩山邦夫副理事長

ご逝去

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

邦夫へ

鳩山由紀夫

「自然との共生」それが邦夫が言っていた友愛の理念です。私もそれは大切な理念だと思っています。日本友愛協会は、その思いを忘れずに活動の中に取り入れていきます。邦夫の分も頑張っていきます。

三年前に母が亡くなりましたが、まさかこんなに早く邦夫まで逝ってしまうとは信じられません。二週間ほど前に、いつものように気軽な話をしました。それが弟との最後の会話になってしまいました。

何事も兄を追い越していた弟でしたが、人生まで追い越すとは兄として寂しい限りです。

私たち兄弟は小中学の頃は小児喘息持ちで、当時は運動が嫌いで、母が心配して家庭教師を私たちにつけてくれたのですが、その先生が勉強よりも野球や昆虫採集を教えてくれました。邦夫が蝶の権威になったのはそれがきっかけでした。料理もプロ並みでした。大学生の頃、勉強が終わると台所で餃子を皮から作って食べさせてくれたり、屋台のラーメン屋に家をこっそり抜け出して食べに行ったり、本当に仲の良い兄弟でしたが、常に弟のほうが積極的でした。

また、弟は幼稚園の頃からオーパパ（一郎）の跡を継ぐのは自分だと言って、その通り、田中角栄先生の門下生となり、政治家になりました。政治嫌いの私が政治の世界に入るとき、派閥の違う私を角栄先生の下に連れて行ってくれました。言うまでもなく、弟は私にとって政治家の先輩であり、運命のいたずらで時には意見を異にすることがありましたが、内向的で自己表現がうまくない私にとっては、常に目標であり自慢の存在でした。主要閣僚を歴任し、また蝶を愛し自然を愛する弟が、より高い立場から日本の将来や環境問題などに真剣に取り組んでくれることを期待していただけに、残念でなりません。今は政治一筋に生きてきた弟が、政治という責任から身も心も解放され、安らかに永眠することを祈っています。

第十二回定時評議員会開催

平成二十七年事業報告

平成二十七年計算書類

平成二十七年度公益目的支出計画実施報告書

全会一致で承認

理事長が詳細に報告 理事会では新規事業も検討

六月二十四日(金) 友愛サロンに於いて、第十二回定時評議員会及び第四十九回定例理事会が開催された。評議員会では、平成二十七年度事業報告、平成二十七年度計算書類及び平成二十七年度公益目的支出計画実施報告書が協議され、全会一致で承認された。内容詳細はHPに掲載

冒頭、鳩山邦夫副理事長の急逝を受け、全員で黙祷が捧げられた。

また、友愛サロンに飾られた鳩山邦夫副理事長の写真、評議員長、理事長の間に置き、会議を進行した。

理事長挨拶

弟邦夫が急逝し、驚いているというより、信じられない気持ちです。弟は常に友愛は「自然との共生」だと言っていました。その思いを受け継いで、今後も活動を続けて行きたいと思っています。

評議員長挨拶

お集まりいただいたことに感謝致します。

私的な話しになります。が、大人になってゆつくりと邦夫と話をする機会が無かったので、何よりそれが心残りです。皆さまから慕っていただいていた邦夫の思い出を大切にしたいと考えております。

愛協会の運営を進めて参ります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

出席評議員数が確認され、評議員会の成立が宣言された。

定款により、井上和子評議員長が議長を務めた。

第一号議案平成二十七年事業計画、第二号議案平成二十七年計算書類、第三号議案平成二十七年公益目的支出計画実施報告書は、内容から一括審議となり、理事長が事業報告の詳細を、資料を基に報告した。計算書類については、求めに応じ事務局より報告がなされた。公益目的支出計画実施報告書については、順調に進んでいる旨が報告され、金沢監事が監事を代表して幹事監査が行われ、全ての書類に間違いがない旨を告げた。協議の後、第一号議案から第三号議案まで、順に決議をとった。結果、全ての議案が全会一致で承認された。定刻を三十分過ぎ、評議員会を終了した。

友愛時評

▼英国のEU離脱についての国民投票で離脱派が僅差で多数となり、全世界に衝撃が走った。特に、EU離脱後の英国とEUの関係が不透明なことから、世界経済・金融市場に「リーマン・ショック」級の影響を与えている。▼EU内部では、初めての「離婚」協議に、正式な手続き開始前から大もめである。これ以上の加盟国の離脱を食い止める「メルケル独首相らは、一離婚」後の条件闘争には厳しい姿勢で臨むことを強調している。英国との関係がよくなかったユンケル欧州委員長は「そもそも深い愛情はなかった」と突き放した。▼今回の投票結果は大方の事前予想を覆したわけだが、英国とEUの関係は歴史的に見た場合それほど意外な結果でもない。仏独を核とするEUが英国の加盟を認めた一九七〇年代から両者の関係はギクシャクした時期が長かった。時に新規加盟国に規範を押し付けるかのようなEUという「帝国」に、独自の伝統と政治制度を誇る英国が反発するのも無理からぬことである。▼それにしても、国民投票というのは怖ろしい。EUの歴史を見ても、一九九二年の「デンマーク・ショック」や、二〇〇五年のフランスとオランダでの欧州憲法条約の国民投票での批准拒否は、政治の流れを一気に、不可逆に変えたものであった。EUの政治・経済エリートの視点から見れば、誠に厄介な存在である。だが民意との乖離が争点となっているEU諸国では、時に重大な決断を国民投票に委ね、その結果を尊重することで民主主義を貫いている。参院選の隠れた争点である憲法改正が現実化すれば、日本の政治にもその覚悟が問われることになる。(ヒゲ)

日露友好 歴史の一幕を観る

ヘダ号を訪ねて―戸田造船郷土資料博物館

友愛の像 友愛広場 日露友好の礎

静岡県沼津市戸田にある「戸田造船郷土資料博物館(駿河湾深海生物館併設)」をご存じだろうか。日本初の洋式帆船ヘダ号に係る資料が展示されている。しかしその奥には、日本とロシアの友好の歴史の始まりともいえる興味深い物語がある。

過日鳩山由紀夫理事長はこの博物館を訪ね、大きな発見をした。博物館のある敷地は「友愛の広場」であり、日露両国の青年の像は「友愛の像」と命名されている。そして日露和親条約にみられる、真の日露友好の足跡が、そこにはしっかりと記されていた。

『友愛』の読者にもこの事実を伝えたいと川手常務理事、奥田理事が現地を訪れた。現地では、関係各位のご協力を得て、様々な資料とともに多くを知ることができた。(なお、キャプションに*印のある写真は、「戸田造船郷土資料博物館」より提供されたものである)

興味深い戸田の歴史とともに、ここにご紹介する次第である。なお、博物館に展示されている品々は静岡県の近代化産業遺産に指定されている。

安政の大地震

一八五二年、ニコライ一世の命を受けたプチャーチン提督は、遣日全権使節として、平和的、友好的な日露国交交渉を行うべく、サンクトを出発しました。大西洋を南下、喜望峰を回り約一年かけて長崎の出島に到着します。

しまいました。

……………

* 安政東海大地震津波 M8・4 戸田の震度5 戸田総戸数五九三戸の内、二十四戸流失 潰家八十一戸 大破三十三戸 亡くなった方三十名

……………

幕府との交渉が進まず、いったん退いてディアナ号に乗り換え、再度日本を訪れたときには、日米和親条約が既に結ばれていました。

プチャーチン提督は何としても国交交渉を成立させねばならず、幕府は対応に苦慮し、既に開港していた下田港での交渉を提案します。そこで下田港にディアナ号を停泊し川路聖謨(かわじとしあきら)との交渉を待っていたのですが、一八五四年十一月四日に起きた「安政の大地震」による津波で、波にのまれたディアナ号は湾内をさまよい、舵と船底を大きく破損して

隻の小舟を使って、曳航されることになったのです

……………

* 安政東海大地震津波 M8・4 戸田の震度5 戸田総戸数五九三戸の内、二十四戸流失 潰家八十一戸 大破三十三戸 亡くなった方三十名

……………

このディアナ号の修理の場所として白羽の矢が立ったのが戸田の港でした。駿河湾は、日本一深い湾で、戸田の港も十分な水深があり二〇〇トン級のディアナ号も乗り入れる事ができます。何とか自力で戸田の港に向かったディアナ号でしたが、突然襲った強風のため戸田湊には入れず、プチャーチン提督は乗組員全員に退艦命令を出しました。波にもまれるカッターボートを、漁民たちが命綱をつき曳き、救助活動にあたったのです。五〇〇名余の乗組員は、村の人々の助けで奇跡的に上陸することができました。

その後、ディアナ号は百



プチャーチン提督の肖像画
「磯割烹の宿山市」所蔵・提供

した。

感謝の念を忘れずに

日本初の洋船は、一〇〇トンにも満たない船でしたが、プチャーチン提督は、船の完成を喜び、自ら「ヘダ号」と命名しました。

そして「我が魂を永遠にこの地に留め置くべし」という言葉と、様々な記念の品を残し、ロシアに帰って行きました。

その言葉の表れが、娘の



ディアナ号模型。写真では解りにくいですが、ヘダ号と比べるとかなり大きさが違う。二〇〇トン級

オリガ・プチャーチナさん

(ロシア皇后付名譽女官)の戸田訪問です。オリガさんは、亡き父が戸田の人々から受けた多くの気持ちに感謝すべく戸田を訪れ、プチャーチン提督が滞在し、執務室に使っていた宝泉寺を始め、様々な父の足跡をたどりました。その後日本とロシアとの関係は良好なまま進んだとは言えませんが、時が流れ一九六九年に

……………



ヘダ号模型。日本初の洋式帆船として進水した。ディアナ号模型と同じ縮尺で作られている

「戸田造船郷土資料博物館」が建設されるにあたって、ソビエト連邦政府は五〇〇万円を戸田村に寄付しています。当時のトロヤノフスキー在日ソビエト連邦大使が、直接戸田に赴き、山田三郎村長に手渡ししています。ロシアにおけるヘダ号、戸田村の高い評価と感謝は、今も続いているのです。

全文をご紹介します。

日本国魯西亜国和親条約

魯西亜国と日本国と、今より後、懇親にして無事ならんことを欲して、条約を定めんが為の、魯西亜ケイ

ズルは、全権アヂュダンド・ゼネラル、フィース・アドミラル・エフイミュス・プーチヤチンを差越し、日本大君は重臣筒井肥前守・川路左衛門尉に任じて、左の条々を定む。

日露和親条約

一八五六年、プチャーチン提督の副官だったポシェート氏が、日露和親条約の批准書を携え来日します。この折、ヘダ号も返却されました。ポシェート氏は一八八二年、日本を再訪し戸田湊に船を留め戸田村の人々との再会を果たします。戸田での数ヶ月が、いかに思い出深いものであったのかを、この逸話は伝えていきます。

……………

現在サンクトペテルブルグ外交史料館に保存されている「日露和親条約」の内容が、この資料館に展示されています。

……………



宝泉寺の一室に今も保存されているプチャーチン提督の執務机。当時の記録絵など、貴重な資料も

亜船の為に、箱館、下田、長崎の三港を開く。今より後、魯西亜船難破の修理を加へ、薪水食糧、欠乏の品を給し、石炭ある地に於ては、又これを渡し、金銀錢を以て報い、若金銀乏敷時は、品物にて償ふべし。魯西亜の船難破にあらざれば、此港の外、決て日本他港に至る事なし。尤難破船につき諸費あらば、右三港の内にて是を償べし。

日本国魯西亜国和親条約

魯西亜国と日本国と、今より後、懇親にして無事ならんことを欲して、条約を定めんが為の、魯西亜ケイズルは、全権アヂュダンド・ゼネラル、フィース・アドミラル・エフイミュス・プーチヤチンを差越し、日本大君は重臣筒井肥前守・川路左衛門尉に任じて、左の条々を定む。

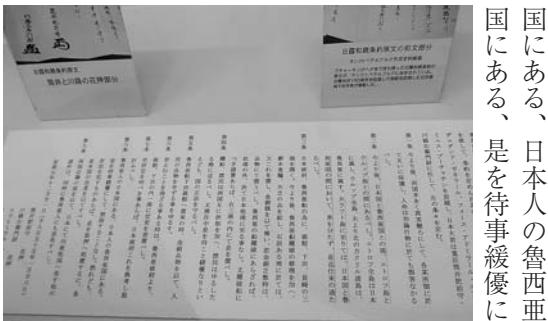
日露和親条約

一八五六年、プチャーチン提督の副官だったポシェート氏が、日露和親条約の批准書を携え来日します。この折、ヘダ号も返却されました。ポシェート氏は一八八二年、日本を再訪し戸田湊に船を留め戸田村の人々との再会を果たします。戸田での数ヶ月が、いかに思い出深いものであったのかを、この逸話は伝えていきます。

……………

……………

……………



日露和親条約の全文。左上奥には、原本にある二人の日本人の花押も見られる。日露友好の原点

して、禁固することなし。
然れども、若法を犯すもの
あらば、是を取押へ処置す
るに、各某本国の法度を以
てすべし。

第九条 両国近隣の故を
以て、日本にて向後他国へ
免す処の諸件は、同時に魯
西亜人にも差免すべし。
安政元年十二月廿一日(千
八百五十五年一月廿六日)

筒井肥前守 花押
川路左衛門尉 花押
エウヒミウス・プーチャー
チン
カヒテン・ポスエット

戸田造船郷土資料博物館建 設

プチャーチン提督を始め
とするロシアの人々の戸田
村に対する友好の念は強か
ったのですが、戸田村の
人々もこれに劣らぬ強い友
好の念を抱いていました。



*戸田造船郷土資料博物館全景。右にディアナ号の錨が、左に友愛の像が飾られている
毎週水曜日休館 電話・ファックス 0558-94-2384 大人200円 子供100円

一九〇四年には、日露戦
争という事態を迎えます
が、戸田村の人々は、プ
チャーチン提督が、感謝のし
るしにと置いて行った品々
を大切に保管し続けたので
す。それもそのはず、安政
の大地震では、村人も津波
の被害にあり、自分たちの
命を守り生活を守ることに
必死だったのです。そんな
状況の中で、五〇〇名もの
異国の人々を命懸けで助
け、介抱し、三か月の間手
厚くもてなしたのです。

戸田村の人々と、ディア
ナ号の乗組員との間に生ま
れた心情、それこそが「友
愛」の思いだったのでは
う。

一九六七年、戸田村の各
地(個人所有など)にあつ
たディアナ号、プチャーチ
ン提督に関する品々が、静
岡県の史跡に認定されまし
す。

山田三郎村長の思いは、
自筆の石碑として、「日露友
愛の像」の前に建立されて
います。



トロヤノフスキー 在日ソビエト連
邦大使が命名した「友愛の松」大
きく繁って全景は収まらない

石碑の文面
日ソ友愛の像
海は世界をつなぐ、友愛の
きずなである。孤立した
島から、大陸から人はこの
きずなによって結ばれ、そ
れぞれの文化を高め文明を
築いて生きた幕末の頃、プ
チャーチン提督の乗艦ディア
ナ号が遭難するや戸田の
人々はこれを助け露国人と
共に協力して代艦戸田号を
建造した。

友愛の灯はこの時 あかあ
かと二つの国を映したのだ



熱心に説明を聞く川手常務理事
(写真左から二人目)と奥田吉郎
理事(写真右から二人目)



宝泉寺に祀られているロシア水兵
の墓。亡くなられた二人の水兵は、
大きなしだれ桜の下で眠っている

爾来幾星霜世相はどのよう
に変わろうとも二つの国の
人々の心の奥底に友愛の灯
は決して消え失せることは
ないであろう

村長 山田三郎 謹書

友愛の松

記念資料館を建設し、デ
ィアナ号との交流、プチャ
ーチン提督の思い出を次代
に継承したいと思った戸田
の人々の思いに、ロシア側
も当時のトロヤノフスキー
在日ソビエト連邦大使が戸



「友愛の広場」手前の石にその名
が刻まれている。木々に囲まれた
静かな場所だ。左奥が博物館



戸田の海。透明感があり、穏やか
に風いだ海は、素晴らしい。岬の
向こうに富士山が見える

田を訪れ寄付の目録を手渡
すなど、誠意ある対応で応
えています。さらに、言葉
の隔たりをこえて育まれた
友情を称賛する思いは、日
本もロシアも同じことで
す。戸田を訪れた記念に、
トロヤノフスキー在日ソビ
エト連邦大使は、現在の戸
田造船郷土資料博物館横に
ある、当時樹齢百年ほどの
松を「友愛の松」と命名し
ました。この松は近隣でも
珍しい程の大きな松となっ
て今も元気に育っています
す。トロヤノフスキー在日
ソビエト連邦大使は、ディ
アナ号の遭難、ヘダ号の進
水を見ていたであろう浜辺
の松を選んで、「友愛の松」
と名付けたのはないでしょ
うか。

最後に

ここまでディアナ号、ヘ
ダ号、プチャーチン提督に
まつわる戸田の歴史を駆け
足でご紹介しましたが、い
かがでしたか？

紐解いてみればびっくり
するような事実があるもの
です。そして事実のなかか
ら浮かびあがってくる「友
愛」の言葉は、国境を越え、
言葉の違いを越え、人と人
が仲良く出きることを伝え
ています。

私自身が一番興味深く感
じたのは、日露和親条約と、
和船と洋船の違いです。

紀伊国屋文左衛門のミカ
ン船に見る和船は、確かに
コロンブスのサンタマリア
号やアメリカのコンステイ
チューション号とは、帆の
向きが九〇度異なってい
ます。大海原を走るには、洋
式船の機能がいかに優れて
いたかが解ります。実際幕

府は、戸田の船大工たちが
覚えた技術を基に、洋式船
の建造に乗り出しているの
です。

船の走るその海は、山田
村長の言う「友愛のきずな」
です。日露和親条約に記さ
れていることは、海を絆に
博物館の前に建立された「友愛の
像」錨を手に、遠く友愛の海を見
晴らしているのだろうか



山田三郎村長の思いを込めた石
碑。友愛の像の前にある。(全文は
本文中に掲載)



宝泉寺に保管されている「友愛の
像」原型。プチャーチン提督の執
務室であった机に飾られている



ディアナ号の錨。二〇〇トンの
船に相応しい立派な錨だ。重さ約
四トン 長さ四・八メートル



*ヘダ号建造の地を示す「造船記
念碑」は戸田の湾の中心辺りに建
立されている。近くには戸田の製
塩所もあり、左には海水浴場もあ
る穏やかな海に臨んでいる。
戸田灯台、日露友好記念碑など岬
を巡ると歴史散策ができる

ワイーンでのコンサート

人と人とのつながりで得た素晴らしい演奏

宮下 大器



今回オーストリアに行くことが初めてであり、日本人のガイドさん無しで海外に行くということも初めてでした。そのため、ワイーンでの研修旅行は本当に楽しみでしたが、不安もいっぱいでした。

ススキー氏に説明、提案すると、彼は快く私の音楽を受け入れてくれました。しかし彼の美しい、着飾ろうとしない自然な音楽を聴いた時、私はこの曲はこうあるべきだと決めつけ、表現の幅を狭めていたような気がしました。私が今まで聴いてきたもの以外にもこんな音楽もあるのだ、と彼のピアノは気づかせてくれました。それと同時に研修初日でドイツ語が出来ずコミュニケーションしたいと落ち込んだ自分や、前日のワイーンのオーケストラでみた演奏中のコミュニケーションの事を思い出しました。

いざ行ってみますと、やはり最初は言葉の壁にぶつかりました。ドイツ語は日本ですれなりに勉強を積んではおりましたが、いざ現地の人々を前にすると何も出て来なくなってしまう、研修二日目辺りまではかなり落ち込んでおりました。

今回の研修を通して音楽は国境、人種関係なく人が繋がることの出来る素晴らしいコミュニケーション方法であると、改めて実感することが出来ました。

それでもオーストリア勤労青年連盟の方々や、私をお世話してくれた方々は、私の片言の喋りを笑顔で一生懸命聞いてくださり、また励ましてくださり、自分の話す、たあいのない話題でもすごく盛り上げてくださいました。その時私は、もともと自分の気持ちを伝えたい、もともと彼らとコミュニケーションしたい、勉強が割と苦手な私でしたが、研修プログラムの合間を縫って積極的に語学のテキストを開いておりました。

これからの、音楽を通じてたくさんの人々と出会い、多くを学び、音楽家として、また人として立派に成長していきたいと思っています。

その後三日間にわたり、ピアノストのエフゲニー・シナイスキー氏と研修最終日のコンサートのリハーサルをしました。演奏プログラムはR・シューマンのリーダークライスOp.24 Es dreht sich mich hin (私はいらだつ)で、この曲は大学院の卒業試験で演奏し経験を重ねていたため、どのような風な音楽にしたいか自分の中で決まっておりました。

海外での演奏は初めてでもあり、ワイーンに来てからコンサートの日まで人前で歌うことはなく、かなり緊張しましたが、ワイーンの人々に自分を認めてもら

ラが世界一であることは充分知っておりましたが、いざ生演奏を耳にすると本当に美しく、素晴らしかったです。

最後に、今回の機会をくださったが、今回の日本友愛協会、お世話になったオーストリア勤労青年連盟の皆さま方に本当に感謝申し上げます。



エヤップ本部玄関のシンボルの前で。左からピンマー専務理事、ベールコピッチ会長、宮下大器さん

トピック …… 戸田から歴史探訪

写真提供 / 戸田造船郷土資料館・戸田史談会

今回取材でお邪魔した「戸田造船郷土資料博物館」には、「駿河湾深海生物館」が併設されています。名物のタカアシガニを始め、深海の珍しい生き物、戸田の漁法などが紹介されています。特に目を引くのが、写真のミツクリエナガチヨウチンアンコウのメスの標本。ここでご覧できるメスを強調したのは、オスは写真を見ての通りの有様で、メスにへばりついたまま一生を終えます。この標本は、体長二〇センチ程のものですが、オスはメダカ程の大きさもありませんでした。

また、戸田は江戸城を築くための石切場(石丁場)であった歴史もあります。各地の大名が幕府に納める石を戸田村に注文しました。戸田の港から各大名の紋所が刻まれた沢山の石が江戸に運ばれて行きました。その名残は現在の皇居清水門あたりで見られるそうです。皇居を散策しながら、新たな歴史探訪に挑戦してはいかがでしょうか？

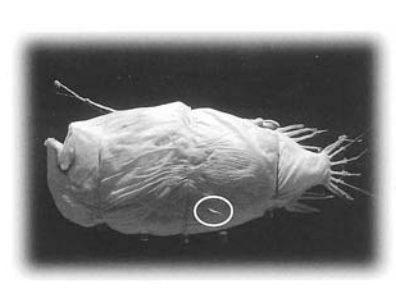
戸田の石丁場跡。大きな石が切り出された様子が、今も残っている。山歩きには絶好の場所だ

戸田湾を望む石切場(石丁場)からの景色。穏やかな美しい海と雄大な富士山を望むことができる



ミツクリエナガチヨウチンアンコウのメスの標本。標本なので白くなっているが実際は鈍い茶色系

石丁場から切り出された石の一つ。島津藩からの注文だったのだから、十の字の刻みが残る



機関紙『友愛』原稿募集

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。
締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。
要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
写真：紙焼き(カラー・白黒)・デジカメデータどちらでも。
送り先：(財)日本友愛青年協会事務局 宛

編集後記

◆年齢とともに知識も増えるが、改めて知らぬことの多さに驚く。尚、我足らざるを憂う。木鶏には遠く及ばない。

人はやる気とともに若く、老いとは夢を失うこと。だから常に前を見つめて確実に一歩を記したい。そして亀の如く一日一日ゆっくり修行を重ねてゆく。人間は年齢に関係なく成長することと生きる意義があり、生甲斐がある。

笑顔は人を変え、感謝は敵を作らない。和顔愛語をベイスに率先垂範できれば有難い。元氣・やる気・本気で日々フレッシュ。人にはその人しか果たせない使命がある。

今を生きる。(K)

時事川柳 服部迪夫 作

「時事川柳研究会」顧問

・副理事長逝去
趣味人が友愛胸に去って逝く
・男子体操
最強のメンバーですと五人組
・モハメド・アリ死去
伝説の巨人が逝くボクシング

・一六三キロ・大谷投手
最速の元年になる交流戦
・記録塗り替える
白鵬の心はいつも挑戦者
・三菱自然費不正
信頼の輝き失うダイヤ
・熊本地震
震災の後に震災やってくる
・世界的演出家逝く
蜷川の舞台の先にある舞台
・清澄白河
材木の香りをのせたコーヒ―街